

動労の変質を糾す。全国大会方針批判(2)

「『水本』運動へのとりくみをもっと主体的に強化する」ーこの全国大会方針案ほど今日の動労の反動的変質・革マル党派への一体化を示すものはないだろう。闘う動労の伝統を汚し全国の良心的組合員を愚弄する、かかるセクト的方針を怒りをもってうちくだけ、一刻も早く反動暴力集団一掃の動労大改革をなしとげなければならない。

一片の「総括」も出来ぬ破産の現実

全国の組合員を愚弄する第一の点は、あれほど膨大な組合費と全国強制動員をつぎこんで二年來にわたって全力投入してきた「水本」運動に関する「総括」の項目が方針書の中から完全に消し去られている事である。

ほんの半年前の本年一月の東・西組織部長会議で「八〇年代動労運動の基調」とまでまつり上げられていた「水本」運動が、今日では完全に破産し、総括も出せず、討論もできないという惨状を呈しているのだ。

「水本」完全破産は歴史の必然!

第二の点は、われわれが当初より指摘した如く、所詮デマはデマであり、百万遍唱えても決して真の労働者をとらえることはできないことをはつきりと示している。「水本」の今日の破産の現状は、

①、裁判所へ権力になきついて「死体スリカエ」なるグロテスクなデマ話を認めてもらおうという事自体の破産性である。逆に指紋・歯型等々「同一人物」である事がバクロされ、(地裁)がダメなら(高裁)へ(最高裁)へ……。それでもダメなら(日弁連)へ、(民事訴訟)へ……。と破産した「水本」の残がいをひきずってあの手の引き延しの綱渡りをやっているにすぎない。

②、今やほとんどの文化人から見はなされてい

る。今方針案中にも反合放棄・三里塚敵対・千葉破壊方針をめぐって「動労と学者・文化人などの論議が積極的におこなわれ云々」(P22)とガタガタ状況を報告せざるを得ないほど深刻なのだ。

③、動労以外のどの労働組合からもそっぽをむかれ、「水本」集会は「半数が動労の指令動員」でもっている現状。

④、かんじんの動労内ではこのようなデマ運動へのセクト的な強制動員に対する当然の反発・拒否は増々拡大している事は周知の通りである。

一層の「革マル私物化」方針を許さず今こそ「水本」デマ運動粉碎を!

第三に、この明白な破産の現実を「総括」しないで「方針」の項目に何と書かれているのか。

「究明する会」に主体性をもって参加し、取り組みの強化をはかることとします。(以下要旨)
①「究明する会」を軸に統一戦線へ発展させる。
②同会の機関紙の発行に執筆・購読・編集などの協力体制を強化する。
③同会がよびかける諸行動には積極的に参加し運動の発展を勝ちとる……

もはや明白である。真面目な組合員の討論も封じておいて今まで以上の強制をかけてこの破産したデマ運動にあくまでしつこくつこうという事なのだ。闘う動労の伝統を守れ! 反動的党派私物化路線を許すな! 今こそ動労大改革へ!

動労千葉に連帯する (詩人)井之川 巨

たなか労働者の顔はうつろい、
瞳がうつろい、
健康な肩の線がうつろい、
たなか労働者のまにに
立ちあがる者たちの姿はみにくい、
うしろむきに数をたのむ者たちの姿がみにくい、
その足もとの乱れがみにくい、
たなか労働者の言葉はよくわかる、
正義の言葉がはくらの胸をたたく、
「労働連帯・三里塚・ジェット闘争貫徹!」
「水本デマ運動糾弾!」
「戦闘的反抗闘争の構築!」
「ファッショ的、暴力的組合支配阻止!」
たなかわな労働者の言葉はよじれて曲くねる、
奴隷の言葉が主人の足もとに膝まづく、
「三里塚闘争とは一線を画す!」
「貨物輸送安定宣言!」
「千葉再建オルク行動!」
「千葉地本の執行権停止!」
かつてぼくの親しい友らは

動労労働運動二十九年
いま動労労働者の前途にふたつの道がある
連帯するぼくらの前途にもふたつの道がある
ひとつは動労千葉のゆく道
たなか労働者の伝統をひきうける左手の道だ
ひとつは動労中央が唱導する道
裏切労働運動へ傾斜していく右手の道だ
ふたつにひとつ
(しかし)
マヤコフスキーもうたっているではないか
道はふたつでもぼくらのすすむ道はただひとつ
左へ! 左へ! 左へ!
胸を張れ、勇敢に!
三里塚の空いちめん旗を貼れ!
右へ行くのはいつだ!

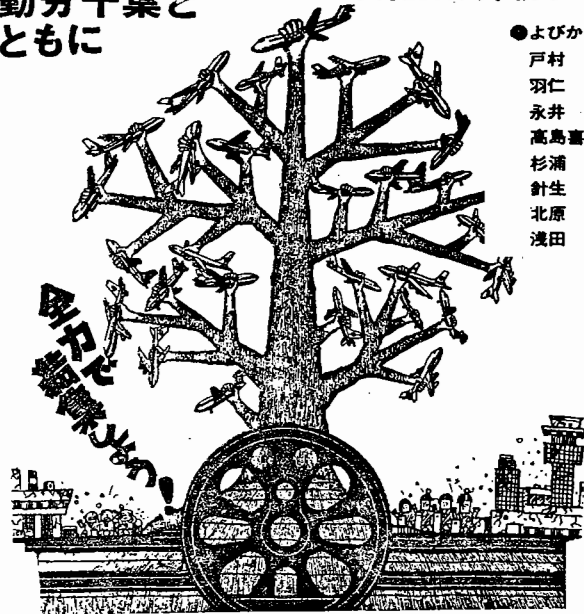
労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

革マル派との一体化をうち出した 「水本」強化の方針案!

80年代をきりひらく
動労千葉と
ともに

千葉市民会館大ホール
7月28日(土)午後5時半

●よびかけ人
戸村 一作
羽仁 五郎
永井 満雄
高島 久雄
杉浦 明平
針生 一郎
北原 勉治
浅田 光輝



7・28国民大集会へ!